



重要文化財

# 旧毛利家本邸

平成二十三年十一月二十九日指定  
防府市多々良二丁目

旧毛利家本邸は、明治天皇から山口県内に本邸を構える承諾を得た公卿毛利家が、維新の元勲井上馨の協力を得て、明治二十五年（一八九二）、この地に建設することを決定し、建てられたものである。

工事は大正元年（一九一三）九月に着工し、四年弱の歳月を経て同五年に完成した。設計者は、原竹三郎である。本館は、江戸期の御殿造りの様式を取り入れた近代和風建築で、木曾御料林の松、屋久島の神代杉、台湾の檜などの銘木・良材を用い、質の高い饒金具や金箔金粉を施した壁紙、照明器具など贅を尽くした意匠で仕上げ、大正・昭和天皇皇后陛下の行幸の際には、宿泊所として供された。

本館以外では、女中部屋、洗濯所、画像堂、門番所、石橋、本門など十一棟のほか、附指定として供待、作事納屋、小使溜り、湯沸場など当時の建物や棟札、建築関係資料がほぼ現存しており、華族の生活実態を明らかにできる稀有な建造物群でもある。

総面積は一九八三・六五平方メートルに及ぶ。  
平成二十三年（二〇一一）十一月、「意匠的に優秀なもの」として、国の重要文化財に指定された。

平成二十五年三月

山口県教育委員会  
防府市教育委員会

